114
A 3534

宮内省圖書寮

謹テ惟ミルニ我帝國戰勝ノ餘勢俄然國力膨ヲ現ハシ鐵道工作製造殖産凡ソ百般ノ事業今ヤ各地ニ勃興ス識者之ヲ觀テ他日不虞ノ反動アラン事ヲ憂ルモノ蓋シ其故ナシトセザルナリ然レトモ陽氣正ニ發シテ草木ノ向榮スルハ人為ヲ以テ之ヲ抑止スルヿ能ハザルガ如ク全國ノ人心已ニ此氣運ニ向ヒ潮流ノ急勢ニ乘ス之ヲ奈何ゾ中途ニ逆遏スルヲ得ンヤ今日ノ計タル宜シク其勢ヲ順導シテ洪濤ノ氾濫ニ至ラシメス反動ヲ未發ニ豫防シテ以テ勢變ヲ牽制スルニ在ルノミ然ラバ則チ全國金融ノ中央機関タル日本銀行ガ未雨ニ綢繆シテ其警戒ヲ縝密ニシ敢テ一般ノ趨勢ト倶ニ輕ク妄進スルヿ無ク徐ク

不測ノ変ニ應スルノ準備ヲ為ス其機正ニ今日ニ在ルヲ疑ハザルナリ夫レ明治三十年ノ日本銀行ハ復タ明治十五年ノ日本銀行ニ非ズ當時創立ノ初ハ其関繫ノ及ブ所ハ唯ニ我ガ帝國内ニ限ルガ如クナリシモ今ハ則チ然ラズ宇内ノ金融ニ亨聯シテ互ニ牽制タルニ從ヒ其伸縮緩急ニ於テ影響ヲ受ケ世界商業ノ消長繁簡ニ由リテ其波動ヲ被ムル一勢ノ避クベカラザル所タリ況ヤ幣制方ニ更マリテ益々其容着ヲ切ニシ欧米市場ニ於ケル商情沈滞ノ如キ金融恐慌ノ如キ其現象一旦發動スルニ臨ミテハ我モ亦的面ニ利害喜憂ヲ共ニセザルベカラズ故ニ日本銀行ハ今日ヲ以テ早ク準備積立金ヲ増殖シ以テ資力培養ノ長計ヲ立テ中外ノ経済界ニ何等ノ変動アルニ除シテモ屹然トシテ其間ニ特立シ潮勢ニ揺撼セラレザル恰モ英蘭銀行ノ如クナラン事ヲ冀図シ鋭意ニ其根底ヲ鞏固ニシ倘セテ我國一般ノ諸株式會社ヲシテ其則トル所ヲ知覚セシメント欲スルナリ

何ヲカ一般株式會社ヲシテ則トル所ヲ知覚セシムト謂フヤ曰ク現時諸會社ノ類ニ勃興セル情勢ヲ観察スルニ其事業ノ如何ヲ問ハズ創立者タリ株主タル輩ハ實際ニ於ケル事業其物ノ利益ヨリハ寧ロ市場ニ於ケル株式高價ノ利益ヲ目的トスルモノ其多数ニ居ルガ故ニ概皆其所有株式價格ノ市場ニ昂貴ナラン事ヲ望メリ株式價格ノ昂貴ナルハ其會社利益配當額ノ多キ

ニ由ル於是乎諸會社ノ當事者ハ其株主ノ歡心
ヲ得ルニ汲々トシテ為シ得ベキ限リノ配當ヲ為シ
其極ヤ遂ニ當然利益ト認ムベカラザル者ヲモ蒐
集シテ之ヲ配當スルニ至ル而シテ其株主等モ亦目
前ノ得益ニ眩迷シテ更ニ前途ヲ慮ルニ遑ナシ是レ
個人營利ノ一點ヨリスレハ敢テ深ク咎ムベキニ非ザ
ルガ如シト雖モ其諸會社ノ内鐵道郵船銀行等
ノ如キ凡ソ國利民福ニ直接ノ関係アル事業ニ
シテ其資力ノ培養ヲ忽セニスル斯ノ如キハ豈ニ憂
フベキノ現状ニ非ズヤ宛竟スルニ今日諸會社株式
ノ時價ハ投機者流ノ左右スル所タルヲ以テ勉メテ
市場ニ其高價ヲ保タシムル丁諸會社當事者
ガ株主ニ對スル要務ノ一ト成リ苟モ其法律條

例規則定款ニ違反セザル限リハ得益収入ヲ挙ゲ
テ盡ク之ヲ配當ニ供スルニ至レリ其弊ヤ諸會社
ガ事業ノ為ニスベキ準備ハ曾テ充實ノ域ニ達セ
ズ其事業ニ必要ナル建築修繕機械原料等ニ
供スベキ經費ヲモ為シ得ベキダケハ堪ヘ忍ビテ其
支出ヲ各ミ却リテ之ヲ利益配當ニ轉用シテ更ニ其
後ヲ顧ミザルモノ蓋シ今日蔽ノベカラザルノ事實
ナリ此ノ如クニシテ数年ニ渉ラバ假令世上ニ事ナキ
モ其會社ハ資力枯瘦シテ事業ノ衰退ヲ見ルニ至ル
ベキハ必然ナリ況ヤ一朝不測ノ變動アリテ恐慌紛
擾ノ急ニ遇フニ於テヲヤ然ラバ則チ是等諸會社ヲ
シテ一般ニ其利益配當ヲ應分ノ程度ニ止ラシメ其
剩ス所ヲ以テ各自ノ資力ヲ培養セシムルハ寔ニ國

家経濟ノ要務ナリト謂フベキ歟然レトモ諸會社ヲ誘掖シテ此ニ到ラシメント欲セバ日本銀行率先シテ之ヲ實踐躬行シ諸會社ヲシテ其則トル所ヲ知覺セシメザルベカラズ

夫レ日本銀行ハ全國金融ノ中央機関ナリ他ノ諸株式會社ノ如ク其株式時價ノ昂貴ヲ目的トシテ利益ヲ謀ルガ如キ株主ヲ以テ組織セラレタル者ニ非ザルナリ故ニ其創立ノ初ニ當リ帝國政府ガ自ラ株主トナリ総株数ノ半額ヲ引受ラレタルハ實ニ此中央機関ヲ保護スルノ精神ニ出デ其利益配當ハ「人民所有ノ株金ニ對シ年八分ヲ配當シ政府ノ持株ニ對シ年六分ニ止ムル」ト規定シ（当初定款第三十六條ノ明文）「是レ素ヨリ保護助成ノ精神ニ出ル者ニシテ人民ト共ニ利ヲ争フガ為ニ非ザレハ利益金配當ニ於テモ亦一般人民ト大ニ異ナル所ナカルベカラズ」ト言明セラレタリ（当時大蔵卿ガ日本銀行設立旨趣ノ説明）是ニ由リテ日本銀行ノ政府持株ハ第一配當ニ於テ人民所有株ニ比シテ當ニ二分減タリシ而已ナラズ（政府六分人民八分）第二配當ノ如キハ獨リ人民所有株ニ止メテ政府持株ニ及ボサヾリキ（政府二分人民八分）其後明治十八年政府持株ハ帝室御所有ト相成リタルモ「総テ政府所有中ト同様ニ相心得云々」ト（同年四月）ノ指令ニ（大蔵卿ノ指令）依リ前例ヲ遵行シ明治十九年下半季ニ到リ利益漸ク増加シタルニ付第二配當ニ於テハ之ヲ均分シタレドモ（帝室二分人民二分）第一配當ハ猶舊慣ニ仍レリ（帝室六分人民八分）尋テ明治二十年日本銀行定款

改正以降ハ帝室御所有株人民所有株共ニ均一ノ配當ヲ為シ以テ今日ニ及ベリ爾来日本銀行ノ利益金配當ハ年一割ヨリ歳々増加シテ年一割一分一割二分乃至一割三分半ト成リ明治二十八年ニハ更ニ増加シテ年一割五分ト成リ同年増株ヲ為スニ當リ其第一回拂込ニハ金銀較差勘定ヨリ得タル特別利益金ヲ配當シテ之ニ充テタレバ其以来ハ配當歩合ヲ年一割三分ニ低減シタルニ係ラズ其株主ハ別ニ出金ヲ要セズシテ所有株ノ数ヲ増シ之ニ從ヒテ多額ノ配當ヲ享受スルニ至レリ故ニ今日ニ於テ其配當歩合ヲ低減スルモ豈ニ敢テ為ニ苦痛ヲ覺ユル所アランヤ

眼ヲ轉シテ全國ノ情勢ヲ考察スレバ已ニ開陳シタル如ク鐵道工作製造殖産等百般事業ヲ経營スル諸株式會社ノ勃興ハ投機者流ガ株式其物ノ利益ヲ目的トスルノ弊風ヲ拓キ徒ニ過分ノ配當ヲ勉メテ後圖ヲ忘ルガ為ニ其資力枯痩シテ基礎ノ堅固ヲ失ヒ事務ノ活動ヲ欠キ動モスレバ頓挫阻衆ノ危キニ瀕セントスロ本銀行タルモノ之ヲ如何ゾ黙視シテ可ナランヤ日本銀行ノ株主タルモノハ年一割以上ノ利益ヲ配當スルノ好果ヲ節省シテ之ガ低減ヲ果決シ一方ニ於テハ資力ヲ培養シテ屹然風濤ノ間ニ立チ敢テ動揺スルヿ無キノ準備ヲ享クシ一方ニ於テハ現時諸會社過分配當ノ弊風ヲ矯正シテ其則トル所ヲ知覺セシムベシ

是ニ由リテ日本銀行ハ自今以後其人民所有株ニ
對シテハ利益金配當ヲ年一割ノ程度ニ止メント欲
ス株主等一個ノ都合ヨリ云ハヽ多少此ガ為ニ満足
ヲ欠クベシト雖モ苟モ其盈満ヲ節有シテ之ヲ蓄
積スルノ長計タルヲ知ラバ此議ニ對シテハ決シ
テ其異見ナキヲ信スルナリ
人民ノ株主ヲシテ年一割ノ程度ニ止マル事ヲ甘ンゼ
シメンニハ帝室ハ其御所有株ニ對シテ更ニ二分ヲ低
減セラレ年八分ニ止メ玉ハン事ヲ請願シ奉ルナリ
帝室八分人民一割 是レ當初政府持株ニ引續キテ帝室ハ同ク
日本銀行ヲ保護助成セラレタル精神ヲ復活スル
ノ旨趣ニシテ敢テ新創ノ發議ニ非ザルナリ
此請願ニ許可ヲ賜ハル時ハ其低減ニ該當スル二
分ノ金額ハ他ノ一般ニ低減シタル三分ト共ニ
シテ割シ得ル所ハ三分ナリ日本銀行ハ擧ゲテ盡ク之ヲ其準備積立
金ニ繰入ルベシ然ラバ則チ其二分ノ半額ハ當然
帝室ノ御所有ニ屬スルヲ以テ真正ニ乘除スレバ
一割 一割ニ低減
其實年一割ノ歩合ヲ九分ニ低減セラレテ僅ニ年
一分ノ抑損タルニ過ギザルナリ此年一分ノ抑損ハ直
ニ一般株主ノ奮起ヲ奬勵シテ配當低減ノ提議ヲ
斷行セシメ日本銀行率先シテ資力培養ノ實例ヲ
示シ以テ普ク諸會社ヲシテ其則トル所ヲ事實上
ニ知覺セシムルヲ得ベキナリ
以上開陳スル所ヲ簡括スレバ即チ左ノ如シ
一日本銀行ハ益〻準備金ヲ增殖シテ資力ヲ培養
シ以テ中央機関ノ根底ヲ固クシ英蘭銀行ノ如ク

ナラン事ヲ期圖セザルベカラズ

一日本銀行ハ此ガ為ニ利益金配當歩合ヲ年一割ニ止メ帝室御所有株ニ對シテハ更ニ年八分ニ止メ其剩ス所ヲ挙ゲテ倶ニ盡ク準備積立金ニ繰入ン事ヲ望ム者ナリ

一現時一般諸株式會社ハ頗ニ過分ノ利益金配當ヲ為シ其資力ノ枯痩ヲ顧ザルノ趨勢アリ此弊風ヲ矯正センニハ日本銀行率先シテ配當低減ヲ實行シ諸會社ヲシテ其則トル所ヲ知覺セシメント欲スルナリ

右請願スル所ノ要領此ノ如シ思フニ日本銀行ニシテ普通營利目的ノ銀行タラシメバ孜々得益ヲノミ是レ謀リ現時年一割三分ノ配當ヲ進メテ一割五分乃至六七分ニモ及バシメ以テ株主ノ歡心ヲ滿足セシメン丁決シテ難シトセザルナリ何ヲ苦シミテ故サラニ其利益金配當歩合ヲ節省シ帝室ニ對シ奉リテ特別ノ抑損ヲ請願スル事ヲ為サンヤ然ルニ今切ニ前件ヲ實行セント冀フ所以ノモノハ誠ニ戰勝ノ餘勢國力膨脹シ百般事業一時ニ勃興ノ際其反動ヲ豫防スルニハ全國金融ノ中央機関タル日本銀行ナルモノ其根底ヨリ堅固ニシテ風潮ノ波動ニ當ルノ準備ヲ為シ兼テハ又諸株式會社ノ弊風ヲ矯正シテ則トル所ヲ知覺セシメ倶ニ共ニ國利民福ヲ増進セシメント欲スルガ為メノミ仰ギ願クハ日本銀行ガ任務ニ當リ報効ノ萬一ヲ圖ル所ノ微衷ヲ賢察セラレテ

此請願ヲ許可シ玉ハン事ヲ匿々悃願ノ至リニ堪ヘズ恐惶敬白

明治三十年七月　日

日本銀行総裁岩崎彌之助

宮内大臣伯爵土方久元殿